

B—81 日本人（7歳～15歳）の身体比例に関する研究

京都女家政 ○勝谷 弥生 土井サチヨ
山名 信子 高橋 純
田中 絹江 西村美智代
高屋 恵子 薬師 敦子
中島 靖江 大石 道子

1. 私達は衣服寸法を設定する基準を見いだすために、身体の測定を行なってきた。第8回関西支部総会において、体型的な成長の特徴についての考察結果を報告した。今回は主に、身体の長さの比例についての考察を試みた。

2. 資料は、1966年7月に京都市内の男女学童・中学生、合計1206名を測定したものである。研究項目は、長径項目22、算出項目5、幅径項目8、厚径項目7、および体重についてである。またこれらの項目の身長に対する示数値を各年齢において比較考察を行なった。

3. 考察の結果、長径項目のうち、全頭高・外果高・膝関節高を除くほとんどの項目は、7歳～14歳までの各年齢間に男女とも高い有意差がみられ、各部位の成長のいちじるしいことを示した。14歳～15歳間の男子は頸椎高・外果高・座高に有意差が認められたのみで、成長が緩慢であることを示している。

身長に対する各項目の示数値については、男女ともに全年齢を通じて変化の少ない項目は、上肢長・大腿長・膝関節高・足長・外果高・肩峰幅・腰部横径・胸部横径・腰部矢状径・胴部矢状径・乳頭間隔・腕付根矢状径であった。

頭身示数は、7歳で5.5、9歳で6、12歳で6.5、15歳で6.8頭身である。全頭高と足長の割合は低年齢においては全頭高の方が高く、11歳頃から同率を示すようになる。さらに身体各部の黄金比および割合などについて考察を試みた。